

「第11回産業日本語研究会・シンポジウム」の開催について

令和元年12月

産業日本語研究会世話人会

顧問：長尾 眞	(京都大学名誉教授)
代表：井佐原 均	(豊橋技術科学大学)
委員：辻井 潤一	(産業技術総合研究所)
橋田 浩一	(東京大学)
隅田 英一郎	(情報通信研究機構)
柏野 和佳子	(国立国語研究所)
潮田 明	(産業技術総合研究所)
清藤 弘晃	(日本特許情報機構)

開催趣旨：

AI が支える産業日本語

産業日本語研究会では、産業・科学技術情報の発信力強化や知的生産性の向上を通じて、我が国産業界全体の国際競争力強化に資するような、人間が理解しやすく機械が処理しやすい日本語(「産業日本語」)のあり方を研究しています。この「産業日本語」の研究は、明瞭な日本語文の作成、高品質な翻訳文の作成コスト低減などにつながるものです。

2019年5月、新元号「令和」の時代が幕を開けました。新しい時代の訪れとともに、「人工知能(AI)」技術は完全に人の世界にとけこみ、今やテレビや新聞などでこのキーワードを見かけない日はありません。AIの波はビジネス分野にも浸透し、ニューラルネットワークをはじめとする技術は自然言語処理の中核部分に活用され、多言語での情報発信や大量の文書データ処理に不可欠な技術となっています。

また、現場における日本語研究と組み合わせることでAI技術はさらに進化し、社会にとってより有用で効果的な技術が生まれます。その技術の活用により日本語データの処理はさらに効率化され、新時代における日本語の世界が広がります。AI技術に支えられた産業日本語により、情報発信力と知的生産性の飛躍的向上が期待できます。

このような背景のもと、今回のシンポジウムでは、産業日本語研究やデータ活用の場面で我々を支えるAI技術に関する研究や取組み、そして、新しい時代の中で様々な形を変えていく日本語に関する最新の知見やトピックスなどを広くご紹介いたします。本シンポジウムが、産業日本語の更なる普及につながり、我が国産業界に大いに貢献できる機会になることを期待しております。

産業界、学术界などからの、多くの皆さまのシンポジウムへのご参加をお待ちしております。